

秋から春にかけての水栽培―秋からは冬に向って次第に温度が低くなるので、これに適した水栽培は温帯植物、つまり、秋まき草花、秋植球根、秋植宿根草が適しています。これらは一五度C前後の水温が根の発育に適していて、秋のうちによく根がのび、冬は水が〇度Cになってもいたみません。

しかし、冬もなるべく五〜一〇度Cに水をあたためる工夫をすれば、冬でも徐々にのびてくれます。

プリムラ、ロベリヤ、秋植球根などの水栽培ができます。

春から夏にかけての水栽培―春から次第に水温も上り二〇度Cをこえることもありまます。こうなると熱帯原産の植物が水栽培に適するもので、ペゴニヤ、ピレヤ、ドラセナなどの熱帯植物はもちろんのこと、春まきの草花も水栽培ができます。

しかし、真夏はいかにも水温が高すぎるので二五度C以上にならぬように気をつけることが大切です。

つまり水に日光を反射させるようなことはよくありません。それに強光線を喜ぶ植物、弱光線に適する植物とがあるのでこれも区別して置き場所を工夫してやります。

アサガオも水栽培ができます。子葉のひらいたアサガオの苗を、根先だけ水につけて、暗くなるように工夫し、葉には日光を十分あててやります。もちろん屋根まではい上るほどの育ちにはなりません。水をやったりやらなかったりでたらしめな栽培をするよりは水栽培の方がはるかに合理的です。

一つ大いに自信をもって土はなくても植物は育ち花も咲くということを実際にやってみて下さい。

子どもたちの植物に対する観念も変わってくるでしょうし、いかに自然がうまく植物を育てているか、ということをしらずしらずのうちに会得するようになることでしょう。

(千葉大学)

幼児の教育 第六十六巻 第一号

一月号 © 定価八〇円

昭和四十一年十二月二十五日印刷
昭和四十二年 一月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします